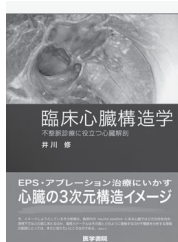


書評

[評者]

副島京子

川崎市立多摩病院・循環器科/聖マリアンナ医大講師



臨床心臓構造学 不整脈診療に役立つ心臓解剖

井川 修 著

B5判 頁184 2011年
定価 12,600円(本体 12,000円+税 5%)
[ISBN978-4-260-01121-1]医学書院刊

規則正しく一日10万回も拍動し効率的に循環をつかさどる心臓は、勉強すればするほど奥の深い臓器です。その発生、解剖、不整脈の機序などを学ぶほどに興味と愛情が増し、自分が循環器医であることに喜びを感じます。井川修先生による『臨床心臓構造学』は、先生が長年培ってこられた心臓への愛情、不整脈への愛情、そして患者さんへの愛情の集大成だと思います。先生の持っている構造学、不整脈学への情熱がひしひしと伝わってきます。

今まで、ほとんどの不整脈を専門とする医師はAnderson/Becker, Netterなどの解剖学者による教科書を参考にしていたと思いますが、本の知識を臨床へ応用するのは個々の読者にゆだねられていました。つまり、内容を理解して応用できるかは読者の力量次第だったと思います。この本では井川先生が基礎と臨床の懸け橋となり、臨床医にも非常にわかりやすく、即時に臨床応用できるような解説がされています。不整脈のカテーテル治療を専門とす医師は世界中に多いのですが、井川先生ほど、心臓の解剖から機序、治療のためのテクニックを知り尽くしたうえで、わかりやすく解説できる医師はいないでしょう。

総論で先生が、“循環器疾患を考える場合、「心臓構造・解剖」の窓を通してそれを見ると、「成因・病態・治療」について新しい方向からその内容を考えることができる。「心臓構造・解剖」への理解は、「心臓形態の形成過程」をたどることでさらに深まるが、可能であればその作業を3次的に行うと、「完成した心臓構造・解剖」への認識がさらに踏み込んだものとなる”と、述べておられるとおりだと思います。漁で大海を航海するには地図がとても重要です。さらに漁を効率よくするためには、高性能の魚群探知機が必要でしょう。この本はまさに“最新フル装備を備えた船”のようなものです。不整脈の機序の理解、カテーテル操作の工夫、合併症予防のための注意点など、臨床医が知らなくてはならないことが満載されています。

これから不整脈を学ぶ医師、不整脈治療をすでに行っているすべての臨床医がこの素晴らしい本から学ぶものは数えきれず、不整脈医必携の本であると思います。そして、今後のさらなる不整脈治療の発展の大きなきっかけになると確信しています。日本だけにとどまらず、今後ぜひ英訳され、海外の医師にも役立つような本になることを祈念します。